

【水の里の旅コンテスト 2020 応募企画】

【学生部門】 大原学園 東京ホテル・トラベル学院専門学校 B班

『阿武隈川沿いへの旅路

サイクリングと川下りで巡ろう！』

(観光地域：宮城県丸森街・福島県福島市)

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	春		
【催行人員】	6名（最少催行人員：2名）	【お勧めする旅行者層】	首都圏住まい、20代、友人同士 自転車愛好家（レンタル可能）
【旅行代金】	42,850円 (大人1名)	【内 訳】	
		新幹線往復 18,620円 ライン下り（弁当代込み）1600円 バス 8,000円 温泉 550円	Restaurant&bar Punch 5,000円 ゲストハウス 66 7,080円 2日目昼食代 2,000円
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
<p>今回は自然の中で運動をしたいという方や、水・陸双方の観点から阿武隈川の自然を楽しみたいという方に向けて、阿武隈川沿いの丸森町、福島市を満喫するツアーを企画しました。</p> <p>阿武隈川は沿岸流域に住む人々の生活に大きな影響を与えてきました。川の特徴や特質をとらえ、その土地への愛情を込めて、相応しい地名を残しています。例えば、上流地域では岩を砕くような激流であるため、【滝】や【巻】と呼ばれる地名が多数あります（滝ノ上、大巻北）。下流地域では川の流れが穏やかなので、【川前】や【土手】などの地名が多くあります。また、令和元年の豪雨では、阿武隈川想定最大規模を超える降雨により、洪水浸水想定区域の見直しが行われたことは、私たちの記憶にも新しい出来事です。このように、現在も人々の生活に深く根差している阿武隈川の流域をめぐり、サイクリングと川下りで楽しむ企画を考えました。</p> <p>また、旅の後半で訪れる飯坂温泉は福島市郊外にある飯坂町に位置する温泉街です。「福島奥座敷」の異名をとる温泉一色の街でもあり、鳴子、秋保と並び奥州三名湯に数えられます。川を挟み60以上の棟が立ち並ぶのが特徴的で、東北新幹線・東北自動車道からのアクセスも良好であり観光客が多い温泉街です。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
ロードバイクを持参する方は、自転車用ケースもお持ちください。サイクリングではカフェに立ち寄るなどし、随時休憩をとります。ライン下りでは、ライフジャケットを着用します。		サイクリングとライン下りを体験する充実のアクティビティです。ロードバイクは福島駅でレンタルも可能です。待ち時間・移動時間を減らすため、バス利用で快適な移動を実現しました。	
【特記事項】	学校のプランニング実習の一環として実施		
【催行実績】	無		

【 行 程 表 】	
1日目	東京駅——新幹線——福島駅——阿武隈川サイクリング——角田駅——徒歩 11:00 12:32 13:00 (6時間30分) 19:30 ゲストハウス・66 (宿泊) ——Restaurant&bar Punch (夕食) 19:40 20:00
2日目	ゲストハウス・66——角田駅——バス——丸森駅——阿武隈川ライン下り——丸森駅 10:00 10:10 10:30 11:00 12:30 ——バス——昼食・飯坂温泉——バス——福島駅——(新幹線)——東京駅(解散) 14:00 17:50 19:18

【 主な観光ポイント (観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など) 】		
阿武隈川 桜並木	ゲストハウス66	Restaurant&bar Punch
 <p>【コメント】 阿武隈川沿いのサイクリングでは、桜並木を望みながら川を眺めることができます。特に福島県二本松市にある、稚児舞台公園、展望台では、桜並木だけでなく東北の山々や蛇行する阿武隈川を見下ろすこともできます。</p> <p>(画像：ふくつぶ)</p>	 <p>【コメント】 ゲストハウス 66 は角田市にある 1 つ星のゲストハウスで、共用ラウンジ、エアコンと無料 Wi - Fi 付きのお部屋 (共用バスルーム利用)、有料の専用駐車場を利用できるなどサイクリング好きにはピッタリのゲストハウスです。ゲストハウスではアジア料理の朝食を楽しむこともできます。</p> <p>(画像：TOHOKU ROUTE 66)</p>	 <p>【コメント】 人気定番メニューの焼き鳥をはじめ、刺身、旬の料理、そして東北の地酒などが楽しめます。新鮮な地場産品や、オーナー自らの舌で厳選したこだわりの食材を使っています。不定期で音楽ライブなどのイベントも開催し、場を盛り上げています。</p> <p>(画像：TOHOKU ROUTE 66)</p>
阿武隈川 ライン下り	飯坂温泉	阿武隈川
 <p>【コメント】 阿武隈川が時を超えて刻んだ渓谷と、四季折々に変化する兩岸の風景を楽しめます。東北第二の大河、阿武隈川は長い間重要な物資輸送路として利用されるなど、東北地方の人々の生活を支えました。昭和まで栄えたこの舟運のなごりを現在に伝えるのが阿武隈ライン舟下りです。</p> <p>(画像：丸森町観光案内所)</p>	 <p>【コメント】 福島市郊外にある飯坂町に位置する温泉街です。「福島の奥座敷」の異名をとる温泉一色の街でもあり、鳴子、秋保と並び奥州三名湯に数えられます。川を挟み 60 以上の棟が立ち並ぶのが特徴的で東北新幹線、東北自動車道からのアクセスも良好であり観光客が多い温泉街です。</p> <p>(画像：青葉旅館 飯坂温泉)</p>	 <p>【コメント】 古くは大隈川と呼ばれていました。現河川名の由来は青熊に由来するもの、下流部が阿武隈山脈に阻まれ隈(曲がり)をなして流れることに由来する説など複数あります。東北では、北上川や最上川と並び地方を代表する川であり、ライン下りを目当てにくる観光客も多いです。</p> <p>(出典：郡山市 公式サイト)</p>